

ドキュメンタリー映画『普通に生きて』続編

生きて、生きて、生きて、普通に生きて

普通に生きて

いのちの自立

前作『普通に生きて～自立をめざして～』では、「どんなに重い障害を持っていても、本人もその家族も普通に生きる」という理念のもと、重症心身障害児・者と呼ばれる人たちの家族で起ち上げた社会福祉法人が、静岡県富士市と富士宮市にふたつの通所施設（生活介護事業所）〈でら～と〉と〈らぼ～と〉を開所させる五年間を追いました。

法制度の改革の波に揉まれつつも「福祉の受け手から担い手となる」発想で行政に働きかけて、理事である親たちは、自分たちのニーズに合った制度やサービスをつくりあげてゆきました。

続編となる本作『普通に死ぬ～いのちの自立～』は、その後、グループホームの開所や、設立十年を迎えて次第に変わりゆく運営方針や、3つ目の事業所建設という流れの中で、年齢を重ねてゆく本人とその家族を八年にわた

って撮影しました。その途中、「医療的ケア」を必要とする人の、在宅生活の中心的ケアラーであった母親が病に倒れます。残された子の母亡き後の地域生活…そこには厳しい現実がありました。

なぜ、医療的ケアが必要だと、「地域で生きる」ことが難しいのか。なぜこの人たちの生活や人生を社会が障害することになってしまうのか…。

映画は厳しい現実を見据えつつ、後半、家族と支援者、医療者の葛藤や気付きを物語の軸に、兵庫県へと、希望を探して旅に出ます。

そこには、伊丹市で〈しえあど〉を率いる李国本修慈さんと、西宮市で〈青葉園〉を率いる清水明彦さんらの重ねてきた地道な活動がありました。軽快でしなやかで、しかしとても健やかに人生を賭けて、真正面から繰り広げられている「一緒に生き合う」取り組みがありました。

公式サイト <https://www.motherbird.net/~ikiru2>



この映画は障害児とその家族を追ったドキュメンタリーではあるがそこから見えるものはリアルな私たちの生活である。懸命に毎日を生きる人々の営みを、長い時間をかけて信頼関係を築きあげて創られた「普通に死ぬ」。そこに障害者も健常者もない。障害者がその人の人生を尊敬を持って生きて、死ぬことのできる社会は、きっと全ての人の人生も輝かせる社会だ。

普通に死ぬ

～いのちの自立～

「あいち国際女性映画祭2020」招待上映作品
 ■この著作の配給・ご購入等に関するお問合せは ■ マザーバード ■ motherbird 
 ■ TEL & FAX : 03-6913-5591 / e-mail : office@motherbird.net ■ <https://www.motherbird.net>

社会福祉法人つどいの家 主催 社会福祉法人つどいの家後援会 ドキュメンタリー映画 『普通に死ぬ～いのちの自立～』上映会

2022年 **10月26日(水)**
宮城野区文化センター
パトナシアター
 仙台市宮城野区五輪2丁目12-70



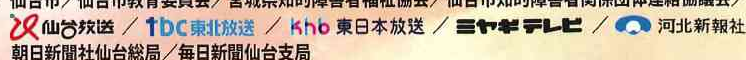
電車でお越しの方
 JR仙石線で
 陸前原/町駅 徒歩1分
 バスでお越しの方
 仙台市営/宮城交通で
 「宮城野区役所前」
 バス停下車 徒歩3分

第1部 13:00～開映 ※開場は各回15分前
 第2部 15:30～開映 ※第1部は上映のみ。
 第3部 18:30～開映 ※第2部・第3部は、貞末麻哉子監督の
 アフタートークがあります。



■チケット 前売り券：1,000円・当日券：1,200円
 ■申し込み ネット予約：<https://forms.gle/oiRs1J9uZDZiJjUBA> (Googleフォーム)
 電話予約：社会福祉法人つどいの家 後援会事務局 (仙台つどいの家内) 022-293-3751
 ※法人の各施設でもチケット販売しております。



社会福祉法人つどいの家は「どんなに重いしょうがいのある人も、地域社会で差別されることなく、いきいきと自立した地域生活ができるよう、自己実現の場を保障し支援すること」を基本理念として、社会福祉事業を実施しております。
 後援：仙台市/仙台市教育委員会/宮城県知的障害者福祉協会/仙台市知的障害者関係団体連絡協議会/

 朝日新聞社仙台総局/毎日新聞仙台支局

※感染拡大防止について、風邪症状や発熱等の症状がある方は参加をお控えください。会場内ではマスク着用、手指消毒等の予防対策のご協力をお願いします。感染拡大の状況により変更・中止する場合もございます。予めご了承ください